

## なでしこ

合い言葉:人にやさしく 学び・かわり きたえる子



## 情報通信機器を正しく使うために

緊急事態が発令・延長されたために、草津市では午前中は対面授業、給食を食わずに午後からオンライン学習という特例日課が続きました。保護者の皆様には、ご理解とご協力をいただき、心から感謝しております。感染力の強いデルタ株が猛威を振るう中、幸い今日まで学校内でのクラスターが発生することなく過ごすことができました。全国的にみると、小学生や幼児の感染が増えてきています。これから肌寒い季節を迎えますので、今まで以上に感染の予防に気を付けていきましょう。

新型コロナウイルス禍による休校対策として、文科省は全ての小中学生に1人1台のデジタル端末を配備する「GIGAスクール構想」を大きく前倒しました。その結果、令和3年3月末時点で、ほぼすべての自治体が小中学校の配備を完了させています。草津小学校は令和2年の9月、草津市内小中学校のトップを切って配備が完了しています。これからの学習を充実させ、オンライン授業にも対応できる文房具としてのタブレットPCですが、使い方を誤ると、陰湿ないじめの温床になってしまうことが明らかになりました。

ニュースでも大きく取り上げられましたが、東京都町田市立小学校に通っていた6年生の女子児童が令和2年11月に自殺し、同級生からいじめを受けていた可能性があることが分かりました。「GIGA（ギガ）スクール構想」で児童に1人1台配備されたタブレット端末のチャット機能を使いたいじめが常態化していた可能性があるようです。

この小学校では令和元年4月に児童1人1台のタブレット端末を配備しました。いじめていた児童は、亡くなられた女の子に対して、授業中などに1人1台端末のチャット機能を使って「うざい」「死んで」などと書き込み

他の児童とも内容を共有していました。この小学校では、1人1台端末にログインするパスワードが全児童共通でした。また、チャット機能も教師の目を介さずに児童同士で自由に利用できる状態だったようです。SNSを使ったいじめ問題がクローズアップされ、子どもに対するネットリテラシー教育が不可欠との指摘が多い中、1人1台端末を悪用したとみられる事態が明らかになりました。

このことは、「対岸の火事」ですませられることではありません。草津市で使用しているタブレットPCでは、児童間のチャットは教師の目の届く範囲でしかできないようになっています。ただ、多くの子もたちがゲーム機も含めて様々な携帯端末を持ちインターネットに接続できる時代になりました。一度インターネット上にあげてしまった情報は、全世界から閲覧が可能で、もし拡散されれば回収は不可能です。家庭と学校が協力して「情報モラル教育の充実を図る」ことは必要不可欠です。

学校の具体的な取組として、道徳の時間の「思いやり、感謝や礼儀」に関わる指導の際に、インターネット上の書き込みのすれ違いなどについて触れたり、「遵法精神、公德心に関わる指導」の際に、インターネット上のルールや著作権など法やきまりに触れたりすることが考えられます。家庭では、親子で話し合っておくことも有効な手段ですね。日々更新される情報化社会のプラス面。マイナス面を理解し、安心・安全に活用する力を育成したいと考えています。



# 収穫の秋 稲刈り体験

5年生

9月15日(水) 1、2、3校時、少し秋らしくなった青空の下、環境ボランティアのみなさんと一緒に5年生が稲刈りを行いました。昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う休校のため田植えはできませんでしたが、今年度の5年生は自分たちの手で苗を植えることができました。これまで総合的な学習の時間に継続して稲の観察を行い、この日の収穫を楽しみにしてきました。

田の横には、環境ボランティアの皆さんが準備していただいた豊作を祝う「ほいのぼり」がはためいています。学級ごとに説明を受け、鎌を片手にいよいよ収穫です。順番に田に入り、多くの実りをつけた穂を力を込めて刈り取りました。また、刈り取った稲の穂を束ね、昔ながらの手作業「足踏み脱穀機」や「ふるい」を使ってお米を集める体験も行いました。足踏み脱穀機は、気をつけていないと手を持っていかれそうになるので、子どもたちは緊張した面持ちで、恐る恐る稲を機械に入れて脱穀体験をしました。

大型の扇風機で風を送ってごみを飛ばしながらお米を選別する作業は、お米を落とすタイミングがなかなか難しく、何度も繰り返し行いました。子どもたちからは、「稲を切るのはザクツとして、とても気持ちよかったです。」という感想が聞かれました。体験に勝る学習はないと昔からいいますが、その通りですね。

「米」という字は分解すると八十八という形になり、お米を収穫するまでには、八十八回の手間がかかるといわれています。子どもたちは、その手間の一端に触れることができました。お米パーティを行うことは難しいですが、環境ボランティアの皆さんには、違う形で感謝を伝えたいと考えています。



## オンライン授業 本格実施

全学年

9月、緊急事態宣言の中、感染リスクの高い給食の時間をカットして、午後からはオンラインで学習を進めてきました。開始当初は回線がうまく繋がらなかったり、間違えて昨日の会議に参加してしまったりするトラブルが続きました。また、多くの学年がマイクとカメラを切った状態でスタートしたため、やや緊張感のない学習時間になっていました。草津市教育委員会と連携・協力しながら一つ一つの問題を解決し、2週目にはご家庭からの問い合わせの電話もほとんどかかってこなくなりました。

国語科や算数科の学習だけでなく社会科や理科、音楽科や図画工作科の学習も行いました。6年生では学級活動の時間にもチャレンジしました。子どもたちからは、「オンライン授業でもがんばって学習できた」という声が聞こえる一方で、「すぐに質問できず困った」「やっぱり、教室で学習する方がいいな」という感想も寄せられています。今回、子どもも教師もオンライン学習というものを体験できたのは、新たな学びのスタイルを習得できたという意味で良かったと思います。まだまだ、新型コロナウイルス感染症は予断を許さない状況です。学びを止めないためにも、オンライン授業の知見を活かしていきたいと思っています。





昨年度から教科として学習することになった英語科。我々教師自身が、小学校で英語学習を行ってこなかったのが、具体的な学習の進め方が上手にイメージできずにとまどうことの多い教科です。また本校の子どもたちの英語に関する評価は、昨年度まで他の項目に比べると少し低くなっていました。そんな草津小学校に、今年度、英語を専門に教える仲尚美先生が来られました。仲先生は、市内の英語教育のパイオニアとして滋賀県の研究委員もされています。9月15日（水）には、小学校英語学習の実践を通じてより良い授業づくりを目指すための研究会を本校で行い、2時間目に6年1組で仲先生と堀井先生による公開授業を実施しました。

今回の英語学習では、自分のことを伝え相手のことをよく知るために、世界と日本の夏休みの過ごし方を知り、自分たちの思い出を紹介する活動を通じて伝えあったり話したりするスキルを磨きます。また、外国語の背景にある文化について理解を深めます。思い出を話すために初めて過去形（went, ate, enjoyedなど）を用いて表現します。

6年1組の子どもたちは、1学期から「聞く・話す」力を育成することで、互いを理解し助け合う学級風土を作ってきました。特に、話を聞くときの反応・リアクションは本当に素晴らしいと感じました。これまで積み上げてきたその力を十分に発揮して、一人一人が「夏休みの思い出」をしっかりと発表し、聞くことができていました。

授業の最初に、この時間に心掛けてほしいこととして①Let's try. (積極的に挑戦する) ②Listen carefully. (しっかり聞く) ③Mistakes? That's OK. (しっばいしても大丈夫) ④Help each other. (互いに助け合う) の4つが提示され、特に③と④を大事にしようと話されました。また、「リアクション」と「クエスチョン」が大切であること、「リアクション」には (Me, too. Really? Nice! Great! Cool!) のような反応があることや「クエスチョン」の仕方にはAnything else? (他には) Tell me more (もっと教えて) How about you? (あなたはどうか) が提示されました。具体的な質問のポイントとしてWhat・Who・Where・When・Whyのいわゆる5Wも示されました。これらは、普段のコミュニケーションの力を伸ばすための基礎的な要素だと思えます。どんな教科の学習でも、必要ですね。

その後、4人ずつのグループに分かれ順番に発表を行います。事前に準備してきた写真や絵をタブレットPCで提示しながら、夏休みの印象的な思い出を英語でプレゼンテーションしていきましました。発表の様子は、交替で録画します。前半2人の発表が終わった時点で中間の振り返りを行い、改善点を示した後で、後半の発表を行いました。コロナ禍のため、授業時間が予定通りとれていなかったのですが、子どもたちは慣れた様子で堂々と英語でプレゼンテーションを行っていました。使っている過去形もgo toがwent toになったというよりは「行って来た」を表現する時はwent toを使うんだという自然な会話の流れの中で言葉を習得していることが分かりました。

1学期に行った子どもたちの英語学習に対する評価が、昨年よりも大きく改善した理由が良く分かる学習でした。英語学習の質を高めるために、これからも積極的に授業実践研究を進めていきたいと考えています。

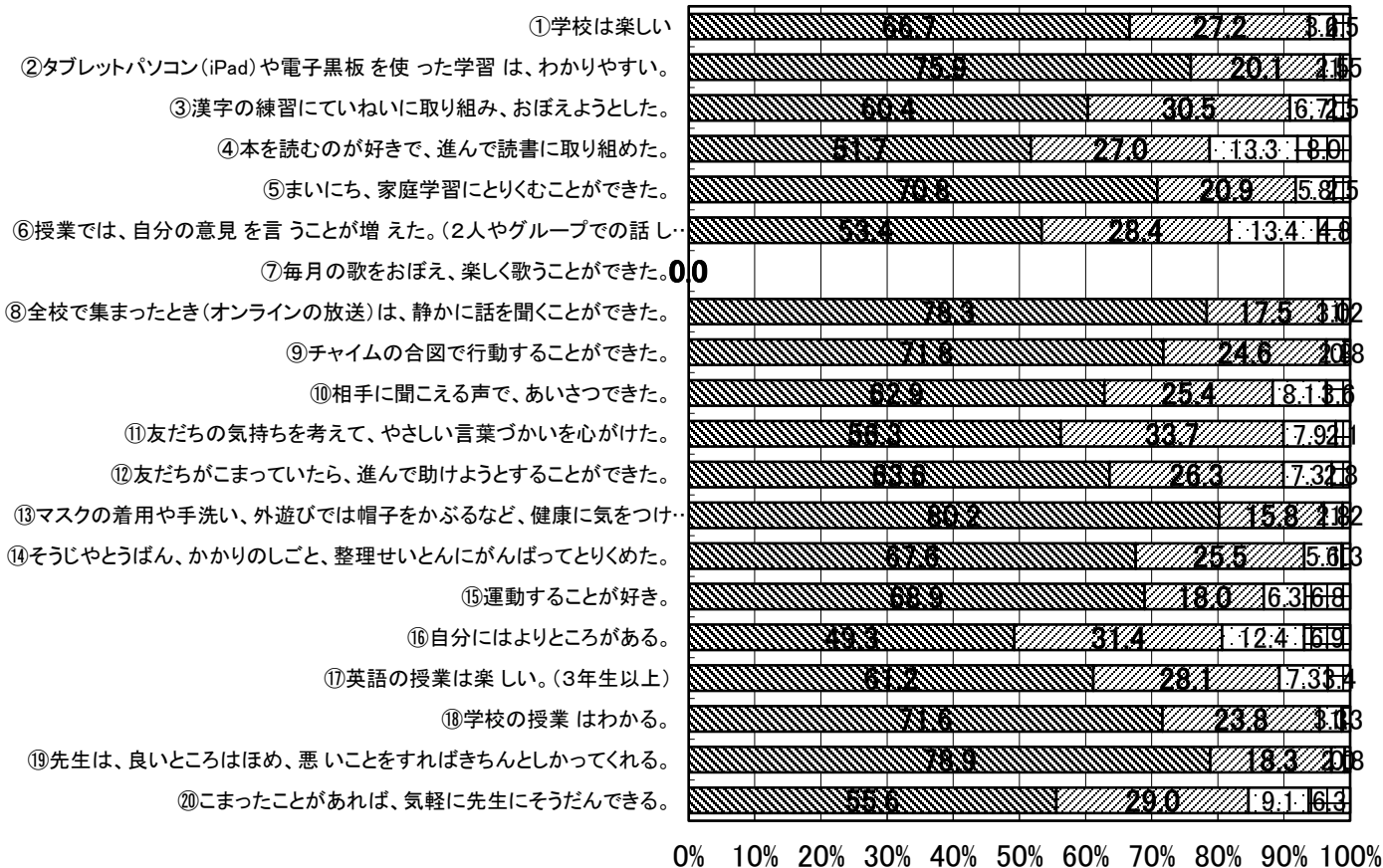


## 市内小中学校講師: 募集のお知らせ

市内のいくつかの小・中学校では講師をしていただける方を探しています。自薦、他薦は問いません。市内小中学校の勤務をお願いできる方の情報を本校あてお知らせください。

- 勤務地は市内の小・中学校です。●教員免許状が必要です。
- その他お問い合わせは草津小学校までお願いしますTel 077-562-0124

# 令和3年度児童評価 1学期



できた     
  まあまあできた     
  あまりできなかった     
  できなかった

1学期の児童自己評価結果がまとまりました。「静かに話を聞くことができた。」「チャイムの合図で行動することができた。」「マスクの着用や手洗い、外遊びではぼうしをかぶるなど、健康に気をつけて生活することができた。」という生活の規律に関する項目は、いずれも高い評価になっています。

学習に関しては、「タブレットパソコンや電子黒板を使った学習は、わかりやすい。」「漢字の練習にいい取り組み、おぼえようとした。」「毎日家庭学習に取り組むことができた。」の項目で、プラス評価が90%をこえています。

「授業では、自分の意見を言うことができた。」「本を読むのが好きで、進んで読書に取り組めた。」の項目でマイナスの評価を行った児童が20%近くおり、課題だと考えています。コロナ禍の中、マスクを着用していたり、友だち同士でグループワークを行う機会が減っていたりしていますが、授業中、積極的に発言できるよう働きかけていきたいと考えています。読書に関しては、全国学力学習状況調査の結果から本校の課題としてとりあげました。朝の読書時間が減ったこともあり、本を読む習慣が定着しにくくなっていると考えられます。「読書の秋」を迎える2学期。児童への働きかけを工夫し、読書を通じて子どもたちの世界を広げていきたいと考えています。

また、「自分には良いところがある。」「こまったことがあれば、気軽に先生にそうだんできる。」の両項目で、どちらも20%近くの子も達がマイナスの評価を行っています。今まで以上に子ども達一人一人の気持ちにより添い、優しく温かい接し方を心がけていきます。また、一人一人の良さを認め伸ばしていく取り組みを充実させていこうと思います。